この街が好きだから

大須賀一雄　武蔵野スケッチ物語 ㊶

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

西久保三丁目付近

今回の作品は、昨年の初夏に西久保に住む知人宅を訪問した際、帰りがけに描いたものである。何処にでもあるような平凡な風景だが、私はこのような街並が好きで、これまで幾度となく描いてきた。

街並を描く時にいつも思うのだが、日本の街並は、ヨーロッパなどに比べて、独特な景観を呈していると思う。特に、通りの両側に立ち並ぶ電柱は、日本の街並を象徴するものであろう。

私は、これまで五十か国以上の国々を旅行してきたが、ヨーロッパなどの主要都市では、美観を損なうなどの理由から、電線は地中に埋設されているので、街並の景観は日本と著しく異なっている。

しかし、私にとっての電柱は、海岸にいろどりをそえる小舟のようなもので、電柱があることもまた日本の風景だと思っている。

（絵と文　大須賀一雄）

大須賀 一雄（おおすか・かずお）
水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も20回を超える。